

ちわいす

2017
お盆号 VOL.150
浄土宗西山深草派宗務所
総本山 誓願寺



総本山誓願寺蔵 『刺繍 種子阿弥陀三尊図』について

寺伝によれば、『梵字弥陀三尊』といいます。仏像では人間に似たお姿で表されていますが、梵字でその仏さまのエッセンスだけ表すという方法もあります。仏さまのたね、種子という考え方です。

中央の円相は月輪で、蓮台に載った阿弥陀如来の種子「キリーク」、向かって右に観音菩薩の種子「サ」、左に勢至菩薩の種子「サク」が書かれています。

つまり阿弥陀三尊の来迎をそのエッセンスだけで表したのがこの遺品です。

「へら書き」という独特の書体の種子は、なんと髪の毛を刺繍してできています。しかも誰あろう中将姫の黒髪。中将姫は当麻曼荼羅を織りあらわしたという伝説の聖女です。いわば、聖女の身体の一部でできた阿弥陀三尊像といえるでしょう。

ところで、密教では阿字観という修行があります。月輪にうかんだ大日如来の種子、「阿」を瞑想し、それと一体となることで、仏の境地にいたるという修行方法です。

人間だれしもかならず、その時を迎える最期の瞬間。その臨終の場に阿弥陀三尊があらわれてくる様子を可視化したものが来迎図です。本図は臨終の場において、阿弥陀三尊と一体化する。そんな思想のもとで作られた、貴重な遺品ということができましよう。

(京都西山短期大学教授・本派宗学院教授 加藤 善朗)

◆ 総本山誓願寺蔵 『刺繍 種子阿弥陀三尊図』 ◆

◆ 目次 ◆

- 布教師会法話
- インド **ドタバタ** 夫婦道中記 ④④
- 賢問子行状記 ②⑩
- 総本山誓願寺だより
- 迷子みちしるべ 八
- 何でも“お寺探偵団” Vol.48
- お釈迦さまの十大弟子 ⑩
- 精明山 天耀院 宝泉寺



愛知県蒲郡市
ぎよくせんいん 玉泉院 住職

にい み わ げん
新美和彦師

御題

「いけらば念仏の功つもり～
(法然上人御詞)」

布
教
師
会
法
話

いけらば念仏の功つもり、しなば浄土へまいりなん
とてもかくても、此の身には、思いわずろう事ぞなきと思ひぬれば、
死生ともにわずらいなし

この御詞は、「法然上人」が常々仰せられた御詞です。死後の事ではなく、この現世において「生まれ変わる」ことを成し遂げられたことへの述懐です。「生まれ変わる」とは、往生することです。理屈ではありません。自分で意識することなく、阿弥陀さまが勝手に、お念仏の功を積んでくださるのです。これが、阿弥陀さまの「真実他力」です。

「お陰様で有り難う御座います。」と感謝のお念仏が、口からほとぼし出る時。まさに、「念仏の功つもり」生まれ変わり、生かされているのです。「日々是好日」で、どんな事が起ころうとも、「今・ここ・私」は、生きることに一生懸命でなければなりません。生きるとは、阿弥陀さまに生かされ続けることです。

戦後六十六年になりますが、六十六年間をかけて夢のような生活を実現したのです。多少の不満はあるでしょうが世界的に見れば欲しい物はなんでも手に入れることができる社会であり、世界で最も長寿の国を実現しました。でも本当に私たちは幸せになったのでしょうか。確かに長生きになり、あふれんばかりの物に囲まれた生活ですが、本当に幸せな生活なのでしょうか。人生は楽しいことばかりではなく、欲しくても手に入らないことはいっぱいあります。また、生きてくても生きられないというように、苦しいことも辛いこともあるのではないのでしょうか。

人間は毎日毎日戻ることの出来ない時間の流れに流されて、日に日に年老いていくのではないのでしょうか。つまり、実は私たちにとって都合の悪い「老い」こそが生きることの現実なのです。私たちが生きるとは、そういう苦悩する人生を生きることなのです。思い切って老化を楽しんでみてはいかがでしょうか。「アンチ・エイジング」ではなく「エンジョイ・エイジング」です。即ち、加齢に立ち向かうのではなく老化を楽しもうというスタンスで生きることです。

お釈迦さまのお悟りになった真理とは、私たちが苦悩から逃避させるのではなく、苦悩の正体に目覚めさせ、苦悩する人生を引き受けて立ち上がらせていく教えなのです。「苦悩に向き合う力」それがお念仏です。そして、「生まれ変わらせる力」それもお念仏です。

法然上人のような立派な方さえ、『自分の力で心安らくなることは出来るものではありません。だから阿弥陀さまの本願の力「真実他力」こそ私たちのために用意されたものであります。』とおっしゃっています。南無阿弥陀仏というお念仏の中に毎日を過ごすことを薦められました。

その法然上人が口癖のようにおっしゃっていた言葉、それが、「生きている間はお念仏を称えてその功德が積もり、命尽きたならばお浄土に参らせていただきます。いずれにしてもこの身にはあれこれと思ひ悩むことなどないのだと思えたならば、生きるにも死ぬにも、お念仏を称えることのできる日々であれば、なにごとにも悩みなどなくなり、心が穏やかになり、「生まれ変わる」ことができます。」とおっしゃっておられるです。このようなお念仏の日暮らしをしたいものです。(十念)

平成24年6月の法話より

布教師会ホームページ

検索

誓願寺

私どもの総本山誓願寺は、古くから女性の参拝が多く、「女人往生」の寺として名が知れ渡っております。また、毎月決められた「洛陽六阿弥陀」の功德日には、午後2時より「お説教」を行っております。是非ご参拝下さい。



賢問子行状記

20

総本山誓願寺執事 小島英裕

第十四話

「松宮氏、
子を捨て親を養う」

前編

後深草院に仕えていた松宮氏は、訳あつて浪人の身となり、京都北山・仁和寺の近くに親子三人で暮らしてました。家業はなく生活の糧も尽き、着物、刀や脇差を売って生活をしていました。そんな貧しい生活の中でも松宮氏は、父親に孝行を尽くしました。夫の姿を見ていた妻も、黒髪を切り櫛を売り父親を養いました。

そんな時、松宮氏は心の病気にかかり、体の自由は利かず、薬や医者のお世話になるにもお金はなく、さらに父親は老衰していきます。妻は夫の看病をしましたが、心の病であるため水も食事も喉を通らず、日に日に衰弱し危篤状態となりました。松宮氏は妻を近く

に呼び、

「今日にも私の命は終わるかもしれない。それにしても老いた父を残し冥土に行くことは残念だ。死んだ後でも頼み残すことは父親のこと。たとえ幼い我が子が飢えて死んだとしても、余命少ない父親が何よりも愛しいのだ！」と涙を流し語りました。

妻は夫に寄り添いましたが、

「南無！」

と、一言聞こえた時、松宮氏は息絶えました。その後、亡骸は、近隣の人手により、奥深い山に葬られ、傍らには、心ばかりの線香とお花が供えられました。

来る日も来る日も、妻は位牌の前で涙を流しましたが、悲しみをこらえ父親の面倒をみようとした。しかし、二歳になる我が子がしがみつ き、泣いています。

「この子をしばらくの間、私から離さないで働いて生活することが出来ない。」

この子を捨て、私が一人になれば父親を養うことが出来る。古い書物にもあるとおり、孝行の誠の心は諸天の御守護があるからこそ！神さま仏さまが私の誠を照らし、子を捨てたとしても善き人に拾われるはずだ！」

と思いましたが。妻は明け方に道の傍らに、子どもを捨てようと考え、一本の卒塔婆を用意しました。

と表に書き、裏には「何年何月何日松宮氏」と書きました。仁和寺の街道に卒塔婆と共に捨てようと思い、子どもを連れ出しました。その後仁和寺の街道で、

「南無諸天善神、守護なし給え！この子の身の上が無事でありませうよ！夜が明けて善きお方に拾われますように！」

と言ひ、子どもを捨てようとしたら、泣き出しました。東の空が明るくなり、夜が明けます。

「さようなら、さようなら」と心の中で呟きながら、後ろ髪を引かれる思いで、子どもを置いて立ち去りました。

(つづく)

京都 本山誓願寺

迷子みちしるべ

～極楽へのいざない～

誓願寺所蔵 『阿弥陀三尊弥勒如来迎図』 絹本着色 南北朝時代(部分)

上の写真に描かれた仏さま、この方は阿弥陀さまの脇に控えておられる、観音菩薩さまのお姿です。これは、誓願寺所蔵の宝物、『阿弥陀三尊弥勒如来迎図』という掛け軸の一部です。「来迎図」とは、臨終(死)を迎えた人を極楽浄土へ連れ行くために、阿弥陀さまと観音菩薩さま、勢至菩薩さまの三尊が、この世に迎えに来られる時の様子を描いたものを言います。ここに描かれた観音菩薩さまは、今まさに、臨終の人を迎えようとなさっているのです。我々は皆等しく、臨終の時にはこうして、観音菩薩さまが手に持たれた蓮の台(蓮台)に乗せられ、極楽浄土へ迎えて頂けるのです。

この「来迎図」が描かれた当時、人びとの生活はどんな様子だったのでしようか。当時の日本は度々戦乱が起こる様な不安定な社会情勢に加え、飢饉や疫病といった自然災害に苛まれるという、明日をも知れぬ状況の中で生活を送っていたのです。日々の不安と苦しみから救われたいという願いは、いかほどだったのでしょうか。そんな中でこの「来迎図」は描かれたのです。

結縁寄付のご案内

ただ今誓願寺では、寺宝修復に向けた、結縁寄付を募集しております。

詳細をご希望の方、またご協力頂ける方は、菩提寺までお問い合わせ下さい。

それはまるで、泥の中に咲く蓮の華の様に、人びとの心の拠り所として希望の光を放っていたに違いありません。たくさんの人びとの信仰を集め、その全ての人が極楽浄土へと導かれて行ったのです。

誓願寺には「来迎図」をはじめ、たくさん宝物が所蔵されていますが、それらは決して「美術品」ではありません。そこには数えきれない人びとの祈りと信仰、そして救いがあったのです。

それは今でも変わりません。先人たちが守り、今に残してくれた信仰のかたちは、現代を生きる私たちをも、極楽浄土へいざなってくれます。そして私たちだけではなく、これから後世の人びとを極楽浄土へいざなってくれることでしょう。

(絵本山誓願寺 書記 板倉宏修)



解空第一の須菩提尊者

お釈迦さまの
ご生涯
外伝

お釈迦さまの十大弟子 10

絵・豆田織奈 文・釈尊法話会

解空第一の須菩提尊者



須菩提尊者は、祇園精舎を寄進した給孤独尊者の弟スマナの子ともで、祇園精舎でお釈迦さまの弟子となりました。あらゆる物は実体が存在しないと

いう、「空」の道理を体得したので、「解空第一」と言われました。『般若心経』に、「色即是空、空即是色、受想行識亦復如是（色は即ち是れ空、空は即ち是れ色なり。受・想・行・識・もまた是くの如し）」と説かれています。『般若心経』を始めとす

る『般若経典』は、お釈迦さまが須菩提尊者の為に説きになられました。お経さまに須菩提尊者の言葉が伝えられています。

「私の庵はよく葺かれ、風も入らず、快適である。天の神よ、思うがままに、雨を降らせ。私の心はよく安定しているし、解脱している。私は努力を続けている。天の神よ、雨を降らせ。須菩提尊者はこのように詩句を唱えた」

「空」の道理を体得し、すでに解脱したにも関わらず、修行を怠ることなく努力し続けておられました。

また須菩提尊者は「無諍第一」とも伝えられています。「諍」とは争いのことです。つまり、一度も人と争うことや喧嘩をすることなく阿羅漢になりました。非常に穏やかな方であったのでしよう。



インドタバタ 夫婦道中記 44

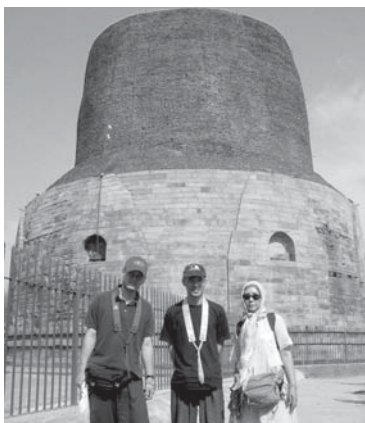
東龍寺住職 岩瀬賢良

疲れを癒した二日(二)

朝食後、洗濯物をホテルの屋上に干しに行ったりした後にゆつくりと身支度をし、ホテルを出て大通りまで行き、オートリクシャーと交渉をして数時間の貸切を、四人で一五〇ルピー（約三七〇円）で決めて早速サールナートに向かった。サールナートはバナシの町から北東に約一〇キロメートルの所で、これまでのざわめきから離れたゆつたりとした郊外で、釈尊が初めて説法をした場所は、広々とした芝生と木々に囲まれた広大な公園の中にある。リクシャーを降り公園の入り口の売店で、安くはない落花生を買って中に入った。その広い一角はフェンスで囲まれ、鹿がいて鹿野園の名残を見せている様である。

サールナートの仏跡は、様々な遺跡が点在している。シンボルとも言うべき巨大なダメーク・ストウーパ（ダメーク大塔）は、六世紀に造られ一部は破壊されてはいるが、細かな彫刻が施され、空に向かつてずつしりとそびえ立っているのが圧巻である。そのすぐ西側には紀元前三世紀に、仏教に篤く帰依したアショカ王が建てた円筒形の石柱の基礎部分が残っており、頂上の部分に刻まれた四頭のライオンが四方を向く像は、公園の道路を隔てた南側の考古学博物館に収められている。インド各地にアショカ王が建てた石柱のライオンの像は、インドの国章として紙幣やコインに描かれている。

ダメーク・ストウーパの西にはまだ新しいムルガンダクティ・ヴィハーラ（初転法輪寺）があり、壁面には余す所なく壁画が描かれている。この壁画は一九三二（昭和七年）年、野生司香雪がインド側の要請で、四年の歳月をかけて書き上げた、釈尊の生涯を物語る大作である。絵の具や壁の材質、温度と湿度の変化を科学的に分析しながらじつくり描いた壁画は、八〇年を経てもその色彩は変わっていないそうである。当初、わざわざ日本人の画家を頼むのに賛否両論があったが、結果として野生司香雪が担当し、彼の努力によりインドの専門家に受け入れられ、現代に到っている。



サールナートのダメーク大塔

総本山誓願寺だより

昨年3月、小冊子「ほとけほつとけない」第一弾、お仏壇編が宗派より発行されました。今年はその第二弾としてお葬式編が発行されましたが、読者の方より感想を頂戴しましたので、ここに掲載させていただきます。



○愛知県岡崎市 服部とみ子様より



第一弾のお仏壇編に続き、拝読させていただきました。第二弾がお葬式編と聞いておりましたのでどんな冊子が出るのだろうと密かに楽しみにしておりました。同年代で集まると自然とお葬式の話となります。そこで話される事は意義より事務的なことです。お葬式というどうしても暗い、悲しいイメージを抱きがちですが、それだけでなくお葬式の本来の意義が、わかりやすい文章とイラストで表現されておりました。一生のうちで何度も経験する事はありませんが、その時をこの冊子を片手に、気持ちを込めて見送りたいと思います。また自分が送られるときはどんな形式の葬儀かは任せておりますが、お葬式の意義は子や孫にもわかって欲しく感じ冊子を渡しました。新しい発見があったようで第一弾、そして次号にも興味を示している様子です。

宗派発行小冊子「ほとけほつとけない」にご興味がおありの方は、ぜひ菩提寺にお問い合わせ下さい。

おもな行事予定

- 八月
 - 十五日(火) 六阿弥陀功德日
 - 十六日(水) 精霊送り・盆施餓鬼
 - 二十二日(火)～二十三日(水) 少年少女参拜団
- 九月
 - 十八日(月) 開山歴代忌・六阿弥陀功德日
 - 二十日(水)～二十六日(火) 秋彼岸
- 十月
 - 八日(日) 六阿弥陀功德日
 - 九日(月) 策伝忌
 - 十日(火) 数珠供養会
- 十一月
 - 一日(金) 仏名会
 - 八日(金) 成道会
 - 二十四日(日) お身拭い式・六阿弥陀功德日
 - 三十二日(日) 除夜の鐘

クイズコーナー

【問題】

インドドタバタ夫婦道中記で、ムルガンダ・クティ・ヴィハラの壁面に描かれている壁画を描いた日本人の画家は誰でしょうか？漢字五文字でお答えください。

○○○○○○

官製はがきに、答え、郵便番号、住所、氏名、電話番号、菩提寺(だんな寺)、感想や質問を必ず書いてご応募下さい。その中より紙面に採用させて頂くことがあります。掲載時には、はがきにてご連絡差し上げます。名前の掲載が困る方は、その時にご返事下さい。今回は、宝泉寺さまよりお地藏さんの手拭いを5名さま、本山謹製線香を5名さま、合計10名さまに抽選して差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】〒444-1350

愛知県岡崎市本宿町東木竹十六番地
欣浄寺内 ちかい編集係

答え ○○○○
郵便番号
住所
氏名
電話番号
菩提寺(だんな寺)
感想・質問等

【締切】九月三十日
(消印有効)

ちかい 第150号

発行日 平成二十九年七月五日
発行所 浄土宗西山深草派
総本山誓願寺

京都市中京区新京極桜之町四五三番地
電話 (〇七五) 二二二一〇九五八
FAX (〇七五) 二二二一〇一九
E-mail info@fukakusa.or.jp
URL http://www.fukakusa.or.jp/

何でもお寺探偵団



宝泉寺

Vol.48



profile

加藤禅祐師 (宝泉寺 第20世) 昭和15年9月生 現在76歳

昭和22年碧南市の貞照院第16世戒舟上人の弟子となり僧侶となる。佛教大学在学中、大本山清浄華院にて石橋誠道上人に師事。縁あって昭和47年宝泉寺第19世戒空禅慧上人の弟子となり同54年晋山、住職となる。

今回は愛知県西尾市にある「**精明山 天耀院 宝泉寺**」を訪ねました。

あります。本堂は三度に渡り建築、修復され、平成15年には住職、壇信徒の尽力により約240年振りの大修復が行われました。

Q3 お坊さんとしての心がけは？

人から尋ねられた事は分かりやすく易しい言葉で話し、何よりも人の話をよく聴いてあげることが僧侶として一番大切な役割だと考え、日々心がけております。

Q1 お寺の歴史を教えてください。

ぶんき かいそう てん 文亀年間(1501~1504)開創。天もん てんにょうとうぎよく かいき 文14年(1545)天耀洞玉上人が開基。以後三河代官鳥山氏一族の菩提寺として法灯を受け継ぎ今日に至っています。当寺の山号は二代目三河代官きよあきら 鳥山精明の名からきたものです。また吉良町横須賀出身の「人生劇場」でぶんごう 有名な文豪、尾崎士郎の菩提寺でも

Q2 お寺の宝物を教えてください。

きよもと 三代目三河代官鳥山精元とその子 きよなが えんぼう 精永の連名で延宝8年(1680)寄進された梵鐘は第二次大戦下の金属供出の命も免除されており、初代國松十兵衛え 作としては現存する唯一の作品です。その他に精元寄贈のひやくまんべん 百万遍念珠、法ちやくしゆ ご えでん ふく 然上人勅修御絵傳12幅、約8尺四方たいま まんだら の当麻曼荼羅1幅があります。

Q4 「ちかい」の読者に何か頂けますか？

お地藏さんのぬぐいの手拭いを5名の方に差し上げます。

【交通】

名鉄上横須賀駅より東へ徒歩10分

【主な行事】

法然上人御忌彼岸会 3月第4日曜日
盆施餓鬼 7月第3日曜日

【お問い合わせ】

宝泉寺
〒444-0535
愛知県西尾市吉良町小牧郷中86
電話 0563-35-0590



梵鐘



本堂



人生劇場の一節



百万遍念珠